

- 1 はじめのうた
- 2 季節のカード (行事編)
- 3 俳句 小林一茶 村上鬼城 松尾芭蕉
- 4 あそびうた だくおんかいじゅう
- 5 早口ことば 「貨客船の旅客」
- 6 かぞえうた 1台 1俵 1枚 (ピアノ、米俵、ざるそば)
- 7 今月の詩 お月夜 北原白秋
- 8 たし算 6の段
- 9 ことわざ 当たるも八卦当たらぬも八卦 後の祭り
衣食足りて礼節を知る 烏合の衆
- 10 かけ算 7の段
- 11 なぞなぞ
- 12 手あそびうた 10人のインディアン
- 13 今月のうた 日本の一番
- 14 四字熟語 暗中模索 一刀両断 電光石火
- 15 おはなし 北風と太陽
- 16 童謡 案山子
- 17 イメージトレーニング 森のお友だち (第6話 探検その3)
(イメージしてみましょう)
- 18 漢詩 九月 九日 山東の兄弟を憶う
- 19 百人一首 皇太后宮大夫俊成 源重之 中納言家持 陽成院
- 20 復習コーナー
- 21 暗示 (静かなところで目を閉じて聞きましょう)

俳句

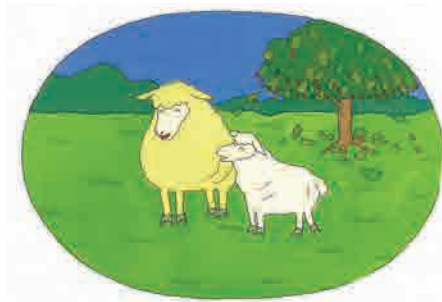
あき^{あき}の夜^よや 障子^{しょうじ}の穴^{あな}が 笛^{ふえ}を吹^ふく

こばやし いっさ
小林一茶



おや^{おや}よりも 白^{しろ}き羊^{ひつじ}や 今朝^{けさ}の秋^{あき}

むら かみ きじょう
村上鬼城



あま^{あま}の屋^やは 小海老^{こえび}にまじる いとどかな

まつ お ばしょう
松尾芭蕉



《だくおんかいじゅう》

だくおん かいじゅう やってきた
なんでも へんしん だくおんかいじゅう
さる が へんしん ざるになる
かき が へんしん かぎになる
ふた が へんしん ふたになる
からす が へんしん なになになる
なんでも へんしん だくおんかいじゅう やってきた



今月の詩

お^{つき}月^よ夜

きたはらはくしゅう
北原白秋

トン トン トン あけてください
どなたです
わたしゃ木^きの葉^はよ トン コトリ

トン トン トン あけてください
どなたです
わたしゃ風^{かぜ}です トン コトリ

トン トン トン あけてください
どなたです
月^{つき}のかげです トン コトリ



あ はっけ あ はっけ
当たるも八卦当たらぬも八卦

うらな あ ば あい あ ば あい
占いは当たる場合もある、当たらない場合もある。
けっ か き こころ
結果は気にせずためしに試してみよう。



あと まつ
後の祭り

ものごと じ き にが やく た
物事には時機があり、それを逃すと役に立たなくなる。
て おく
手遅れになること。



い しょくた れい せつ し
衣食足りて礼節を知る

せい かつ ゆた はじ はじ がい ぶん き くば
生活が豊かになって初めて、恥や外聞に気を配り、
れい ぎ し
礼儀を知るようになる。



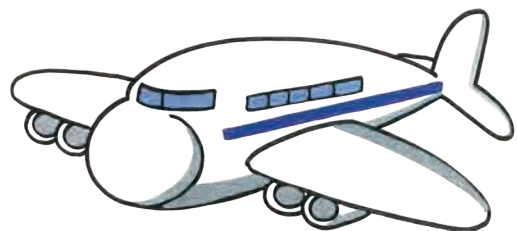
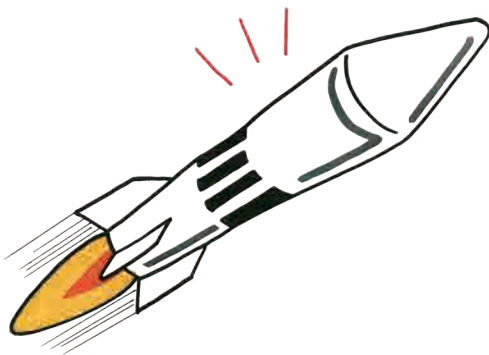
う ごう しゅう
烏合の衆

よ あつ き りつ どう せい
からすの寄り集まりのように、規律も統制もなく
あつ ひと びと
集められた人々。



なぞなぞ

- 1 ひをふき出して、いきおいよく空へ向かっていくものななに？
- 2 頭の上で、はねをクルクルまわしながら、空を飛ぶ乗り物はなに？
- 3 大きな風船で、ふわふわ飛ぶ乗り物はなに？
- 4 おしてもだめだけど、「引こう引こう」と言って、たくさんの人を乗せる乗り物はなに？



《10人のインディアン》

① ひとり



ひとさしゆびを
あげる

② ふたり



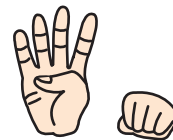
ピースをする

③ さんにんの
インディアン



さんぼんゆびを
だす

④ よにん



よんぼんゆびを
だす

⑤ ごにん



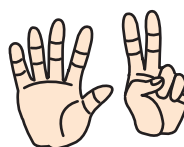
てをパーにする

⑥ ろくにんの
インディアン



もうかたほうの
ひとさしゆびを
あげる

⑦ しちにん



ピースをする

⑧ はちにん



さんぼんゆびを
だす

⑨ きゅうにんの
インディアン



よんぼんゆびを
だす

⑩ じゅうにんの
インディアンボーイズ



りょうてを
パーにする

⑪ じゅうにん



⑫ きゅうにん



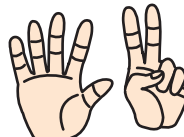
⑬ はちにんの
インディアン



⑭ しちにん



⑮ ろくにん



⑯ ごにんの
インディアン



⑰ よにん



⑱ さんにん



⑲ ふたりの
インディアン



⑳ ひとりの
インディアンボーイ



今月のうた

《日本の一番》

いちばん 一番

にほん 日本
いちばん 一番

いちばん 一番
たかやま 高い山

なんてったって

ふじさん 富士山

いちばん 一番
ながかわ 長い川

なんてったって

しなのがわ 信濃川

いちばん 一番
おおみずうみ 大きい湖

なんてったって

びわこ 琵琶湖

いちばん 一番
ふかみずうみ 深い湖

なんてったって

たざわこ 田沢湖

いちばん 一番
おおしま 大きい島

なんてったって

ほんしゅう 本州

いちばん 一番

にほん 日本
いちばん 一番



あんちゅう も さく

暗中模索

くらやみ なか て さぐ さが て
暗闇の中で手探りで探しものをするように、手が
かりのない物事を、探し求めること。



いっ とうりようだん

一刀両断

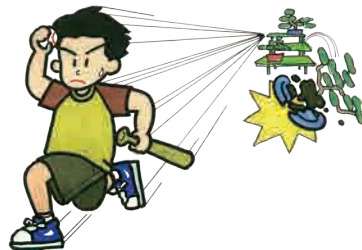
き ま ふた けつだん
ひと切りで真っ二つにすること。すぐに決断して、
ものごと しょり
物事を処理すること。

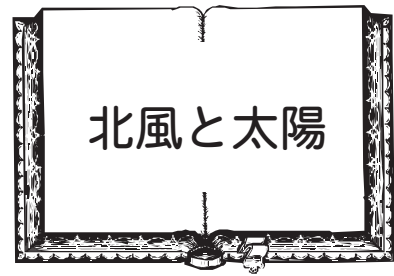


でん こうせつ か

電光石火

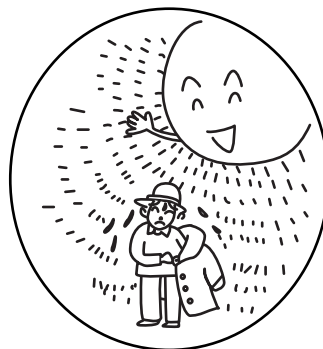
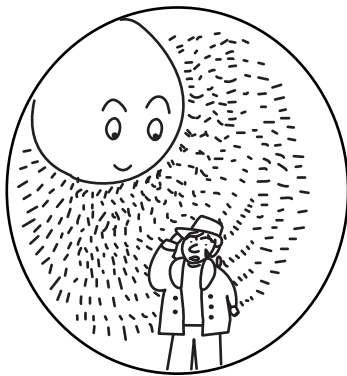
みじか し かん こうどう どう さ ひじょう
きわめて短い時間のこと。行動や動作が、非常に
はや
速いこと。





「^{きた かぜ}北風と^{たい よう}太陽」は、^{きた かぜ}北風と^{たい よう}太陽が^{ちから}力くらべをした^{はなし}お話です。
^{はなし}お話を聞いた^き後で、^{しつもん}質問に^{あと}こたえてみましょう。

- 1 ^{きた かぜ}北風と^{たい よう}太陽は、どうやって^{ちから}力くらべをしたのですか？
- 2 ^{きた かぜ}北風は、どうやって^{たび びと}旅人のコートをぬがせようとしたのですか？
- 3 ^{たい よう}太陽は、どうやって^{たび びと}旅人のコートをぬがせようとしたのですか？
- 4 どちらが^か勝ちましたか？



九月くがつ九日ここのか山東さんとうの兄弟けいていを憶おもう

王おう維い



独ひとり異郷いきように在ありて異客いかくと為なる
佳節かせつに逢あう毎ごとに倍ます親しんを思おもう
遥はるかに知しる兄弟けいてい高たかきに登のぼる処ところ
遍あまねく茱萸しゆゆを挿さして一人いちにんを少かくを

世の中よ

道こそなけれ

山の奥にも
思ひ入る
鹿ぞ鳴くなる

(皇太后宮大夫俊成)

風をいたみ

岩うつ波の

くだけて物を
思ふころかな

(源)

重之

かささぎの

渡せる橋に

白きを見れば
置く霜の
夜ぞ更けにける

(中納言家持)

筑波嶺の

峰より落つる

恋ぞつもりて
みな川の
淵となりぬる

(陽成院)



皇太后宮大夫俊成